令和２年１２月１３日

今日のシライ中

白井の愉快な仲間たち　VOl.34

クロウリハムシ

いつものように、不思議満載の３Ａ廊下、窓辺り。掃除の前、ふとサッシのレールを見てみると、なんとも愛らしい甲虫が一匹。その姿は、「鮮やかなオレンジ色の頭部に、真黒な胴体部」しかも、チュンとついた「真黒で、真ん丸な目」がまた愛らしい。ファンタジーの世界にでもいそうな昆虫です。彼の名は（お腹が膨れていず、スリムだったので、多分、彼！）「クロウリハムシ」です。この「ハムシ」、漢字で書くと「黒瓜葉虫」です。その名の通り、「ウリ」系の葉を好んで食べます。

さて、こんな小さな虫にも、生き残りをかけた見事な戦略があり、驚かされます。当たり前ですが、この虫は、ウリ科の「葉」を食べたいのです。でも、「葉」はもちろん食べられたくありません。そこで、ウリ科の植物は、食べられないために、かじられたとき、「苦味」成分を分泌します。余談ですが、キュウリ（漢字でどう書くのかな？・・・正解は「胡瓜」。はい、「ウリ」科の植物です。）下ごしらえを丁寧にする際、「端を切って、切り口同士をくるくるこすり合わせる」ことをしますね。なぜ？それは、そうすることで、「キュウリ」の苦み成分を集めて、取り除くことができるからです。そして、その成分、よく見ると少しねばねばしています。

実は、ウリ科の植物は、食べられると、すぐそれを察知して、かじられたところにこの「苦み、ねばねば成分」を集結させます。（これもまた、すごいことですね。植物も植物なりの方法で情報伝達を行っているのです。）でも、ここからが本題。こんなことをされれば、「ハムシ」は「葉」を」食べられません。そこで、この「ハムシ」がとった驚きの作戦とは？「自分の食べる部分の外側に、円形の溝（トレンチ）をつける」というものです。なぜ、「溝」をつけるのでしょう？それは、この方法が、「ウリ科の植物の『ハムシ』撃退方法を逆手に取った作戦」、だからです。思い出してください！ウリ科の植物は、傷つけられると、そこに「苦み、ねばねば成分」を集結させるんでしたね！そうです、「溝」で「傷」をつけることで、そこにこの成分を集めてしまうのです。あとは、その内側、苦み成分の届かないエリアで悠々と「葉」をかじっていきます。どうかですか？この双方のせめぎあい！今のところ、「ハムシ」のリードですが、そのうち、ウリ科の植物も次の手を打ってくるかもしれません。あんな小さな昆虫にも、こんな不思議があるのです。知らないことを知るのは、本当に楽しいですよ！